
お前なんか

hide-hero

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お前なんか

【Nコード】

N4444R

【作者名】

hide-hero

【あらすじ】

私立高校への入学を控えた芳野藤雄は、他人を惹き付ける力のある双子の弟、克哉に対して嫉妬心をもっている。仲が悪くはないが、それによって距離のある兄弟は高校で別の選択肢を重ねていく。

卒業 - 1

芳野克哉の名前は、優等生として知られている。

学業はもちろん、サッカー部ではレギュラーだった。しかもそれを鼻にかけず、卑下することもない、嫌味の無い性格で人気も有る。

しかしそれは双子の片割れの話だ。

俺は帰宅部。おかげでスポーツはクラスでせいぜい真ん中程度の出来。余りに余った時間で勉強しているから、そこは克哉より上だ。とは言っても、口の悪さに冷たい態度で周囲からの評価は根暗ガリ勉といったところだろう。しかし、それも今日で一区切りだ。

何を隠そう今日は卒業式。つまりは、友達100人どころか何とか10人の俺は今日で大体と完全にお別れなわけですよっと。

「芳野藤雄くん。」

下らない考え事がキリの良い所で担任に名前を呼ばれ立ち上がる。

「卒業おめでとう。」

「ありがとうございます。」

ニコリともせず卒業証書を受け取った。

卒業式の終わった後の校門は記念写真を撮る親子や別れを惜しむグループで溢れかえっていた。克哉と両親を探して辺りを見回すと、隅の方で男子から女子に何やら渡している。第二ボタンか。もう古くさい風習か、はたまた都市伝説と思っていたが現実にこんな事が

起きているとは。よく見れば第二ボタンの無い男子が何人も居るじやないか。

卒業 - 2

振り返った先に居たのは、さっきまで同じクラスだった芳野桜。血縁関係は無い。偶然苗字が同じだけである。

溜め息をつきながら、表情だけで用件を言うよう促す。

そうすると、妙に楽しそうな目をしながら上ずった声で嫌味な事を言うてくる。これが自分と彼女の会話の公式である。

「藤雄くんはやっぱり立派ですねえ。制服がとっても綺麗つ。ボタンが全部有るわ。」

今日は気分が良いらしく口元もニヤけ気味だ。肩までの黒髪に長い睫毛の彼女は、顔は悪く無いが手厳しい。むしろ、向こうから急に言うて来るので口が悪い。特に自分には。おかげ様で、女の子とのドキドキワクワクお喋りにはならない。

「ありがとう。さようなら。」
目も見ずに言うてまた克哉を探そうと思ったが、更に声をかけられる。

「プレゼント交換しない？この筆箱と。」

そう言うて背中の後ろから腕を突き出してきた。その手には自分の筆箱が握られている。一瞬驚いてしまったが、忘れてきたのだと理解してもう一度ビクリとしてしまった。それが悔しいやら恥ずかしいやらで、とっさにことばを返す。

「俺のボタンでもやろうか。」

一瞬後に顔から火がでそうになるが、そこはなるべく澄ました顔を

した。彼女は急に無表情になり、

「嫌。」

この身も蓋もない回答に、顔が引き吊って何も言えなくなってしまった。それでも彼女は容赦してはくれなかった。

「高校入ってから私に奢りなさい。」

そう言ってこちらに筆箱を更に突き出してくる。ので思わず受け取ってしまった。そしてこの瞬間、自分の敗北が決定した。

「いや、待てよ俺は」

「ありがとう。さようなら。」

そう言って彼女は校門の方に早足で去ってしまった。一步も追いかける事は出来なかった。

こうして中学最後の日、中学最悪の屈辱的敗北を喫し、高校生活の屈辱的スタートが確定した。

何を隠そう、自分の高校は克哉の高校でもあり、更には彼女の高校なのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4444r/>

お前なんか

2011年10月8日12時51分発行